平成30年 電磁気学1

大山主朗

平成30年 電磁気学II 第1回小テスト

- 1 以下の (a) 及び (c) に示す物理定数は電磁気学を修めた者であれば常識的に 覚えていなければならない数値である.それぞれの値を示せ.
- (a) 真空の誘電率 $\varepsilon_0: 8.854 \times 10^{-12} \, \mathrm{F/m}$
- (b) 真空の透磁率 $\mu_0: 1.257 \times 10^{-6} \, \mathrm{H/m}$
- (c) 電子の電荷 $e:-1.602\times 10^{-19}\,\mathrm{C}$
- 2 一辺の長さ a の正方形がある. 点 A に -2q[C],点 B に +1q[C],点 C に -4q[C],点 D に +3q[C],が点 O に -q[C] の点電荷が存在するとき,点 O にある電荷にはたらく力 F の大きさを求めよ. ただし,q>0 とする.

$$\begin{split} & \boldsymbol{F}_{A} = \frac{1}{4\pi\varepsilon_{0}} \frac{-2q(-q)}{\left(\left(-\frac{a}{2}\right)^{2} + \left(\frac{a}{2}\right)^{2}\right)^{3/2}} \left\{ -\frac{a}{2}\boldsymbol{i} + \frac{a}{2}\boldsymbol{j} \right\} [N] \\ & \boldsymbol{F}_{B} = \frac{1}{4\pi\varepsilon_{0}} \frac{q(-q)}{\left(\left(-\frac{a}{2}\right)^{2} + \left(-\frac{a}{2}\right)^{2}\right)^{3/2}} \left\{ -\frac{a}{2}\boldsymbol{i} - \frac{a}{2}\boldsymbol{j} \right\} [N] \\ & \boldsymbol{F}_{C} = \frac{1}{4\pi\varepsilon_{0}} \frac{-4q(-q)}{\left(\left(\frac{a}{2}\right)^{2} + \left(-\frac{a}{2}\right)^{2}\right)^{3/2}} \left\{ \frac{a}{2}\boldsymbol{i} - \frac{a}{2}\boldsymbol{j} \right\} [N] \\ & \boldsymbol{F}_{D} = \frac{1}{4\pi\varepsilon_{0}} \frac{3q(-q)}{\left(\left(\frac{a}{2}\right)^{2} + \left(\frac{a}{2}\right)^{2}\right)^{3/2}} \left\{ \frac{a}{2}\boldsymbol{i} + \frac{a}{2}\boldsymbol{j} \right\} [N] \\ & \boldsymbol{F} = \boldsymbol{F}_{A} + \boldsymbol{F}_{B} + \boldsymbol{F}_{C} + \boldsymbol{F}_{D} \\ & = \frac{1}{4\pi\varepsilon_{0}} \frac{q^{2}}{\left(\left(\frac{a}{2}\right)^{2} + \left(\frac{a}{2}\right)^{2}\right)^{3/2}} \left\{ \left(-a + \frac{a}{2} + 2a - \frac{3}{2}a\right)\boldsymbol{i} + \left(a + \frac{a}{2} - 2a - \frac{3}{2}a\right)\boldsymbol{j} \right\} \\ & = \frac{1}{4\pi\varepsilon_{0}} \frac{q^{2}}{\left(\frac{a^{2}}{4}\right)^{3/2}} (-2a\boldsymbol{j}) \\ & = \frac{1}{4\pi\varepsilon_{0}} \frac{8q^{2}}{a^{3}} (-2a\boldsymbol{j}) \\ & = -\frac{4q^{2}}{\pi\varepsilon_{0}a^{2}} \boldsymbol{j} [N] \\ & |\boldsymbol{F}| = \frac{4q^{2}}{\pi\varepsilon_{0}a^{2}} [N] \quad \mathbf{y} \triangleq \mathbf{F} \cap \mathbf{S} \end{split}$$

3 一辺の長さaの正方形がある、点Bに+m[Wb],点Cに-3m[Wb],点Dに+2m[Wb],点Oに+m[Wb]の点磁荷が存在するとき,点Aにできる磁界Hの大きさを求めよ、ただし,m>0とする、

- 4 以下の (a) から (c) に示すような電荷分布が存在するとき,それぞれの電荷分布が周囲につくる電界 E をガウスの法則を用いて求めよ.
- (a) q[C] の点電荷

$$\oint_{S} E_{n} dS = \frac{1}{\varepsilon_{0}} \sum_{i} Q_{i}$$

$$E_{n} = \frac{q}{4\pi \varepsilon_{0} r^{2}} [V/m]$$

(b) 線電荷密度 λ [C/m] で分布する無限長直線電荷

$$\oint_{S} E_{n} dS = \frac{1}{\varepsilon_{0}} \sum_{i} Q_{i}$$

$$E_{n} = \frac{\lambda l}{2\pi \varepsilon_{0} r l}$$

$$= \frac{\lambda}{2\pi \varepsilon_{0} r} [V/m]$$

(c) 面電荷密度 σ [C/m²] の無限長面電荷

$$\oint_{S} E_{n} dS = \frac{1}{\varepsilon_{0}} \sum_{i} Q_{i}$$

$$E_{n} = \frac{\sigma S}{\varepsilon_{0} S}$$

$$= \frac{\sigma}{\varepsilon_{0}} [V/m]$$

5 導体板の面積S,導体板の平行平板キャパシタの内部が比誘電率 ε_r の誘電体で満たされているとき,この平行平板キャパシタの静電容量Cが $C=\varepsilon_0\varepsilon_rrac{S}{d}$ で求められる理由を説明せよ.

電極に $\pm Q$ の電荷を与える. 次に,電極間に発生する電界 E を求め,電極間の電圧 V を求める.それらを, $C=\frac{Q}{V}$ に代入すことにより,与式が導出される.

$$\begin{split} C &= \frac{Q}{V} \\ &= \frac{Q}{Ed} \\ &= \frac{Q}{\frac{Qd}{\varepsilon_0 \varepsilon_r S}} \\ &= \varepsilon_0 \varepsilon_r \frac{S}{d} \left[\mathbf{F} \right] \end{split}$$

- 6 真空中に単磁荷mが存在する.ただしm < 0とする.このとき以下の問いに答えよ.
- (a) 点磁荷mが、距離rの位置に作る磁界Hを求めよ.

$$H = \frac{m}{4\pi\mu_0 r^2} \left[\text{A/m} \right]$$

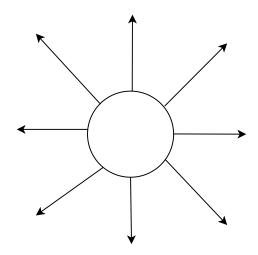
- (b) 点磁荷 m が作る磁界の様子を磁力線を用いて図示せよ.
- (c) 点磁荷 m から距離 r の位置における磁束密度 B を求めよ.

$$B = \mu_0 H = \frac{m}{4\pi r^2} [T]$$

(d) 点磁荷 m から距離 r の位置を通過する磁束 Φ を磁束密度 B より求めよ.

$$\Phi = BS = m \left[\text{Wb/m} \right]$$

3



- 7 xy 直交座標系において,同量異符号の点磁荷 $\pm m$ が距離 l に固定された磁気双極子が存在する.このとき以下の問いに答えよ.ただし,x 方向の基準ベクトルを j とする
- (a) 点 A に存在する磁荷 -m が点 $P(x_0,y_0)$ に作る磁界 \boldsymbol{H}_1 を求めよ.

$$\boldsymbol{H}_{1} = \frac{1}{4\pi\mu_{0}} \frac{-m}{\left(\left(x_{0} + \frac{l}{2}\right)^{2} + y_{0}^{2}\right)^{3/2}} \left\{ \left(x_{0} + \frac{l}{2}\right) \boldsymbol{i} + y_{0} \boldsymbol{j} \right\} [A/m]$$

(b) 点 B に存在する磁荷 +m が点 $\mathbf{P}(x_0,y_0)$ に作る磁界 \boldsymbol{H}_2 を求めよ.

$$H_2 = \frac{1}{4\pi\mu_0} \frac{m}{\left(\left(x_0 - \frac{l}{2}\right)^2 + y_0^2\right)^{3/2}} \left\{ \left(x_0 - \frac{l}{2}\right) i + y_0 j \right\} [A/m]$$

(c) 点 P での磁界 **H** を求めよ.

 $\boldsymbol{H} = \boldsymbol{H}_1 + \boldsymbol{H}_2$

$$= \frac{m}{4\pi\mu_0} \left[\frac{-1}{\left(\left(x_0 + \frac{l}{2} \right)^2 + y_0^2 \right)^{3/2}} \left\{ \left(x_0 + \frac{l}{2} \right) \mathbf{i} + y_0 \mathbf{j} \right\} + \frac{1}{\left(\left(x_0 - \frac{l}{2} \right)^2 + y_0^2 \right)^{3/2}} \left\{ \left(x_0 - \frac{l}{2} \right) \mathbf{i} + y_0 \mathbf{j} \right\} \right] [A/m]$$

(d) 磁気双極子モーメント M を求めよ.

$$\mathbf{M} = m\mathbf{l}$$
$$= ml\mathbf{i} [\text{Wb} \cdot \text{m}]$$

(e) 点 P が原点 O より十分遠方にあると仮定すると、 $\sqrt{(x_0-l/2)^2+y_0^2}\simeq \sqrt{x_0^2+y_0^2}$ 及び $\sqrt{(x_0+l/2)^2+y_0^2}\simeq \sqrt{x_0^2+y_0^2}$ と近似できる.このことを用いて (c) にて得た磁界 ${\bf H}$ を簡略化せよ.

$$\begin{split} \boldsymbol{H} &\simeq -\frac{1}{4\pi\mu_0} \frac{ml}{\left(x_0^2 + y_0^2\right)^{3/2}} \boldsymbol{i} \left[\text{A/m} \right] \\ &\left(\simeq -\frac{\boldsymbol{M}}{4\pi\mu_0 r^3} \left[\text{A/m} \right] \right) \end{split}$$

(f) y 方向に一様な磁界 H_0 が存在するとき、磁気双極子にはたらくトルク T を求めよ.

$$m{T} = m{M}H_0 \sin heta$$

$$= mli \sin \frac{\pi}{2}$$

$$= mli$$

$$|m{T}| = ml \, [\mathrm{Wb} \cdot \mathrm{m}], \, \mathrm{x} \, \mathrm{m} \, \mathrm{d} \, \mathrm{f} \, \mathrm{f} \, \mathrm{f}$$

8 強磁性体,常磁性体,反磁性体の3つの磁性体の性質を,比透磁率と磁化率を用いて説明せよ.

強磁性体は磁化率が0よりかなり大きく,透磁率が1よりかなり大きい磁性体を指す.そのため,磁界と同じ方向に磁化され,その大きさも大きい.

常磁性体は磁化率が0より大きく,透磁率は1未満の磁性体を指す.そのため,磁界と同じ方向に磁化され,その大きさは大きくない.

反磁性体は磁化率が0より小さく,透磁率が1より小さい磁性体を指す.そのため,磁界と逆方向に磁化され,その大きさは小さい.

平成30年 電磁気学II 第2回小テスト

- 1 以下の(a)及び(c)に示す物理定数は電磁気学を修めた者であれば常識的に 覚えていなければならない数値である。それぞれの値を示せ、
- (a) 真空の誘電率 $\varepsilon_0: 8.854 \times 10^{-12} \, \mathrm{F/m}$
- (b) 真空の透磁率 $\mu_0: 1.257 \times 10^{-6} \, \mathrm{H/m}$
- (c) 電子の電荷 $e:-1.602\times10^{-19}$ C
- 2 磁化されていない強磁性体に磁界 H を外部から印加し,強磁性体内部での磁束密度 B を観測すると,図 3 に示すような結果が得られた.このとき,図中の行程 1: 点 O \rightarrow 点 P_1 ,行程 2: 点 P_1 \rightarrow 点 P_2 ,行程 3: 点 P_2 \rightarrow 点 P_3 ,行程 4: 点 P_3 \rightarrow 点 P_4 ,行程 5: 点 P_4 \rightarrow 点 P_5 , 行程 6: 点 P_5 \rightarrow 点 P_6 ,行程 7: 点 P_6 \rightarrow 点 P_1 の 7 つの行程に着目して,測定結果を説明せよ.
- 3 xyz 直角座標空間において,y 軸上の点 $\mathbf{P}(0,h,0)$ を中心とし,y=h の平面内に半径 a の円形ループ電流 I が流れている.このとき,以下の各問いに答えよ.
- (a) 点 P に発生する磁界 **H** を求めよ.
- (b) 点 O に発生する磁界 *H* を求めよ.
- (c) (c) で得られた解答 $m{H}$ を用いて $\int_{-\infty}^{\infty} m{H} dh$ を計算せよ.
- 4 xyz 直角座標空間において、y 軸上の点 $A(0, c_1, 0)$ から点 $B(0, c_2, 0)$ まで y 軸に沿って直線状に流れる電流 I がある.このとき、x 軸上の点 P(a, 0, 0) に発生する磁界 H を求めよ.また、電流 I の始点 A と終点 B の座標がそれぞれ $(0, -\infty, 0), (0, \infty, 0)$ となった場合の点 P に発生する磁界 H を求めよ.

- 5 半径 a の円 O に概説する正多角形の辺上に電流が流れているとき,以下の間に答えよ.
- (a) 正三角形の辺上を流れる電流 I が内接円の中心 O につくる磁界 H を求めよ.
- (b) 一般的な正 n 角形 (ただし,n は 3 以上の自然数) の辺上を流れる電流 I が内接円の中心 O につくる磁界 H を求めよ.
- (c) (b) で求めた正 n 角形が,その内接円の中心 O につくる磁界 H を用いて, $n \to \infty$ の場合の極限値を求めよ.
- 6 縦 2a,横 4a の長さの辺を有した長方形の回路があり,交流電源 E_1 , E_2 とコイル L およびコンデンサ C が接続されている.また,回路の長辺の中心間は抵抗 R を介して接続されている.このとき,以下の問に答えよ.ただし,電源,抵抗,コイル, コンデンサなどの回路素子の寸法は無視できるものとする.
- (a) この回路の各枝路に流れる電流を求めよ.
- (b) 点 P に発生する磁界 H を求めよ.

平成30年 電磁気学II 前期末試験